

ほけんだより

2026年8月号

敬隣保育園

今年の夏も暑さの厳しい夏になりそうですね。

ご家庭の方でも帰省や旅行など、この夏の楽しい計画を立てていらっしゃると思いますが、お子さんに合わせて無理のないよう、そして事故などのないよう安全に気を配り、ご家族での今年の夏の楽しい思い出を作れるとよいですね。

気をつけよう!水の事故

0～1歳では、浴槽での溺死、より活動的になる5歳以上では海や川など自然水域での溺死が最も多く発生しています

水の事故から子どもを守る! 予防のポイント

睡眠や食事は十分にとれているか、おでかけのスケジュール自体に無理がないかどうかもしっかり確認して楽しいお出かけにしましょう!



8月の予定

感染症の報告(7月)

5日(水) 0歳児健診

(登園許可証預かり数)

27日(木) 身体測定

手足口病 1名

家庭での子どもの水の事故を防止するポイント

子どもは声や音を出さず、**静かに溺れます**。少しの時間・少しの水量と油断せず、子どもの見守りや環境づくりが大切です。

<子どもの見守り>

- ◇大人が髪や顔を洗ったりするなど、子どもから目が離れてしまうような状況の時は、たとえ少しの間でも子どもを浴槽から出しましょう。
- ◇子どもを浴室内で一人にしないようにしましょう。



<浴室などの水回りの環境づくり>

- ◇子どもだけで浴室に入れないようゲートを設置したり、鍵をかけるなどしましょう。
- ◇子どもは数cmの水でも溺れることがあります。バケツ・プール等に水をためたまま放置しないようにしましょう。



海や川などで子どもの水の事故を防止するポイント

地形や前日の天候の影響を受けて、海や川の状況が普段と異なることがあります。また、中に入るつもりがなくても、落ちてしまったボールや靴などを拾いに行こうとしたことで事故が起こることもあります。水深などに関わらず、必ずライフジャケットや、かかとの滑りにくい靴を着用するようにしましょう。



<プール>

- ◇飛び込みやプールサイドからのジャンプは、重大な事故につながります。遊具や滑り台などの下にも、もぐらないようにしましょう。
- ◇家庭でプール遊びをするときは、タオルや飲み物など必要なものを先に準備し、**子どもから目が離れてしまう状況を作らない**ようにし、遊んだ後はプールの水をすみやかに抜きましょう。



<川>

- ◇事故の多くは穏やかに見える流れの場所で起きています。
- ◇川は海と比べると、水に塩分が含まれていないため、**流されてしまった時に体が浮きにくい**という特徴があります。また、人は腰より水深が深い川では、どんなに泳ぎが得意でも流されやすくなります。
- ◇川での水遊びは**膝下までの深さ**のところで楽しみましょう。



<海>

- ◇必ず遊泳エリアであることを確認し、**子どもから目も手も届く範囲**で見守りましょう。
- ◇釣りなど堤防の上で過ごすようなときには転落にも注意が必要です。
- ◇海水浴場における溺水事故の多くが、「離岸流」と呼ばれる海岸に打ち寄せた波が沖に戻ろうとする時に発生する強い流れによるものです。同じ海でも発生しやすい場所は、海の状態によって刻々と変化します。離岸流に巻き込まれた場合、無理に泳ごうとせず、岸に平行に、浮くことに専念するように泳ぐことがポイントです。

